<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育の心理学</td><td>教員名</td><td>劉　一杰</td><td rowspan="7">卒業及び免許・資格との関係</td><td>卒　　業</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>こども音楽療育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>情報処理士</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>科目番号</td><td>TAI204</td><td rowspan="3">配当年次</td><td rowspan="3">２年前期</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２単位</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>施行規則に定める科目区分</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>一般目標</td><td colspan="6">保育の心理学の授業では、子どもの発達に関する心理学的知見を習得し、それらを保育実践場面での援助に生かすための土台を形成することを目的とする。乳幼児期は、特に発達が著しい重要な時期である。乳幼児期の子どもの発達を学ぶことで子ども理解を深めるとともに、子どもの育ちと学びに寄り添いながら養護及び教育を一体的に行うための礎を築く。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
(2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
(3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</td></tr>
<tr><td>ディプロマ・ポリシーとの関係</td><td colspan="6">本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「６.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">保育の心理学の授業では、子どもの発達を理解することの意義を学んだ上で、子どもの発達と環境の関連性や代表的な発達理論について学ぶ。その後、保育実践に関わる子どもの発達過程（社会情動的発達、身体的機能と運動機能の発達、認知の発達、言語の発達等）を理解することで子ども理解を深めるとともに、乳幼児期の学びの過程と特性について理解することを通して、保育実践に生かす土台を形成する。授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第１回：保育の心理学とは（目標(1)）
保育の心理学の授業では何を学ぶのかについて、特に子どもの発達を理解することの意義、保育・教育実践に関連した心理学を学ぶことの意義について解説する。
第２回：発達の理論①ピアジェの認知発達理論（目標(1)(2)）
ピアジェの認知発達理論について学び、子どもの思考発達の特徴を踏まえた保育実践と関わりについて考える。
第３回：発達の理論②ウィゴツキーの社会文化理論（目標(1)(2)）
ウィゴツキーの社会文化理論、最近接発達領域と足場掛けについて学ぶ。
第４回：発達の理論③エリクソンの心理社会的発達理論（目標(1)(2)）
エリクソンが提唱する発達理論から、乳幼児期の発達課題に着目し、子どもの自我の発達を支える関わりについて考える。
第５回：子どもの言語の発達とコミュニケーション（目標(3)）
子どもの言語獲得のプロセス（喃語、初語、語彙爆発等）の特徴とその過程について概説し、子どもの言語を引き出す関わり方について考える。
第６回：身体的機能と運動機能の発達（目標(3)）
子どもの身体機能・運動機能の発達過程について学ぶ。
第７回：愛着理論と情緒の発達（目標（3））
愛着の重要性やその測定方法などボウルビィの愛着理論の発展について解説し、愛着形成が難しい子どもへの対応について考える。
第８回：自己概念と自己肯定感の発達（目標(3)）
子どもの自我形成・自己認識の発達段階を知る。また、子どもの成功体験と自己肯定感の関係について学び、子どもの自己肯定感を育む保育実践について考える。
第９回：社会性の発達と対人関係　（目標(3)）
子どもの社会性の発達について、自我の発達との関わりや他者の心の理解の発達の側面から説明する。（目標(2)）
第１０回：情動調性とストレス対応（目標(3)）
子どもの情動調整の発達プロセルと適切なストレス対処について学び、感情のコントロールが難しい子どもへの対応について考える。
第１１回：遊びの意義と発達への影響（目標(3)）</td></tr>
</table>

	子どもの遊びの分類、遊びの発達、遊びを通した発達支援について学ぶ。 第１２回：保護者支援と発達の視点（目標(3)） 親の養育態度と子どもの発達への影響について学び、保護者との円滑なコミュニケーションを促すための工夫を考える。 第１３回：乳幼児期の学びに関わる理論（目標（1）（2）(3)） 子どもの学びに関わる理論について理解することで、子どもの学びと保育を結びつける（養護及び教育の一体性）。 第１４回：発達を理解するための観察と記録、および保育実践の評価（目標(3)） 子どもの発達を捉えるための観察方法、保育記録の書き方や読み取り方法を知る。実際に行動記録をもとに子どもの発達を読み解いてみる。 第１５回：まとめと振り返り（目標(3)） これまでの学びの振り返りとこれからの保育実践への応用方法、発達を支える保育の在り方について考える。 期末試験
授業外学修時間の確保について	（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。） 事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。 事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。 授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
学生に対する評価	課題として提出するレポート・プレゼンテーション等の内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合は課題が全体の40%、期末試験の成績が全体の60%とする。なお、課題等の提出物へのフィードバックについては、授業中に口頭で行う。
テキスト	授業毎に資料、ワークシートを配付する。
参考書・参考資料等	参　考　書：『幼稚園教育要領・保育所保育指針』 文部科学省・厚生労働省 参考資料等：適宜提示する。
担当者からのメッセージ	授業への主体的な参加を期待します。
オフィスアワー	質問等は毎回の講義の後に受け付ける。 それ以外の時間は、事前にメールにてアポをとること。
備考	なし